

調査・研修等計画届出書

令和元年10月23日

瀬戸市議会議長 様

議員名 中川昌也 

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和元年10月31日から11月1日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	上尾市・志木市	
会場名（会場所在地）	上尾市役所・志木市役所	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	1、上尾市 ①公共交通について 上尾市はコミュニティバスにてサービスや収支向上に向け様々な取り組みをされている。中でも、バスロケーションシステム、バス待ちスポット、まち愛スポットの取組みは瀬戸市に反映させる事項であると考え、調査研究させていただく。 ②自転車を活用したまちづくりについて 上尾市は、全国的に自転車利用が多い街と言われており、自転車を活用した街づくりを進められており、現在議会が進めている自転車安全利用に関する条例とも密接な関係があるため調査研究させていただく。	
議長名の依頼	要・不要	依頼先（名称）
同行者名	藤井篤保	

※行程表を添付してください。

調査・研修等計画届出書

令和元年10月23日

瀬戸市議会議長 様

議員名 中川昌也 

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和元年10月31日から11月1日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	上尾市・志木市	
会場名（会場所在地）	上尾市役所・志木市役所	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	2、志木市 志木市事業判定制度について 瀬戸市では事務事業評価シートすら作成されておらず、行政評価が適切に実施されている状況には至っていません。内部評価はもちろんの事、外部評価においても必須であると感じており、志木市の外部評価を含めた手法を勉強させていただき、瀬戸市に反映するため。	
議長名の依頼	要・不要	依頼先（名称）
同行者名	藤井篤保	

※行程表を添付してください。

事務局	局長	副議長	議長

調査・研修等報告書

令和元年11月6日

瀬戸市議会議長 様

議員名 中川昌也



政務調査のため、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和元年10月31日から11月1日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	埼玉県上尾市（10/31）	
会場名（会場所在地）	上尾市役所	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	<p>1, 公共交通について 瀬戸市は次年度より減便を市民にお願いしている状況であると共に、市民からコミュニティバスの充実については、常に不満足及び要望が絶えない現状を打開するため、行き届いた公共交通政策を行っている上尾市を調査研究し瀬戸市に反映させるため。</p> <p>2, 自転車を活用したまちづくりについて 全国でも自転車利用が多いとされている上尾市の自転車政策を調査研究し、瀬戸市も健康で環境に良い街づくりを進めるため</p>	
質疑・応答内容 学んだことのキーワード	質疑内容・キーワード	応答内容・キーワード説明
	コミュバスの収支状況は	平成30年度の運行経費が約1億6583万円で運賃収入が約4千万円
	路線バスへの補助金は	約1千万円
	バスロケーションシステム導入費用は	導入費用約110万円 年間利用及び保守料 約70万円

	質疑内容・キーワード	応答内容・キーワード説明
質疑・応答内容 学んだことのキーワード	市民の自転車利用状況は	数は正確に把握できないが、市民の関心も高く、全国でも利用者は多い
	自転車レーンの整備状況は	年間1千万（国庫補助半分）の予算で、計5.7キロ整備済
	自転車活用したまちづくりの成果は	自転車レーンの整備が順次進んでいる
調査・研修の成果 （瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等）	1, 公共交通について <ul style="list-style-type: none"> ・市内全域をコミュバスと民間路線バスで網羅されており、瀬戸市の現状との差を感じた。 ・終点を鉄道駅とされており、途中公共施設等にも立ち寄るルート設定がされており、瀬戸市も検討しなければならないと思う。 ・市内すべての公共交通をまとめた冊子が作成されており、非常にわかりやすくなっている。 ・バスロケーションシステムを導入されており、利用者には有効なサービスを提供されている。 2, 自転車を活用したまちづくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・毎年国庫補助を活用し自転車レーンを順次整備されているので、瀬戸市も整備を進めるべきである。 ・自転車まちづくり協議会を設置され、補助金も交付されており、自動車に過度に依存しないまちづくりを進められており、民間活用としてシェアサイクリング、自転車ラックの駐輪設備の検討もされているので、自転車活用計画を瀬戸市も策定する必要性を感じた。 	
調査・研修を終えて所感	公共交通については、収支率が24.2%で瀬戸市の14.2%を大きく上回っており、乗車する人が多いルート設定がされている証と言える。収支率の悪い路線はデマンドタクシーに切り替えて対応するべきと考える。市民の足を考える最善策は、各地域にワゴン車を提供し、各地域で運行していただく手法を取る事で利便性及び歳出減少の効果があると考え。自転車を活用したまちづくりについては、町中を歩いている方も自転車利用されている方々を大変多く見かけた。高齢者の買い物難民対策も研究されており、自転車利用の促進による、健康増進、環境に良い街づくりが進んでいるので、瀬戸市でも取組を推進されるよう要望をしていく。	

事務局	局長	副議長	議長

調査・研修等報告書

令和元年11月6日

瀬戸市議会議長 様

議員名 中川昌也



政務調査のため、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和元年10月31日から11月1日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	埼玉県志木市（11/1）	
会場名（会場所在地）	志木市役所	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	<p>○志木市事業判定制度について</p> <p>瀬戸市の行政評価は、事務事業評価シートの作成もなく、自己評価をどのように行っているのか不透明である。</p> <p>本来は市民の皆様の税金を使用し、事務事業を行っているのに、市民の皆様に対し説明できなければいけない。</p> <p>事務事業評価シートの作成は当然の事だが、更には外部評価も得る事で市民に対する税金の使い方の理解が得られるので、志木市の事業判定制度を瀬戸市にも反映させたく調査研究をした。</p>	
質疑・応答内容 学んだことのキーワード	質疑内容・キーワード	応答内容・キーワード説明
	事業判定制度の実績は	判定結果を受けて、事業の見直し、廃止、縮小が行われた
	事業判定会の結果について	判定委員会の結果は尊重するが、決定ではない
	事業判定員の選出方法について	市民力人材バンク登録者より選出する

	質疑内容・キーワード	応答内容・キーワード説明
質疑・応答内容 学んだことのキーワード	市民意見募集結果について	市民意見はほとんど出てこない
	事業判定を受ける事業選定方法について	事務事業の見直しについて担当課から申し出があったものなど
	事業判定制度を導入した経緯は	市長がマニフェストとしてあげたことから制度を作った
調査・研修の成果 (瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価制度の導入し、市政の透明性を図らなければならないと感じた。 ・外部評価制度の導入で、事業を担う職員の意識改革が図られると思う。 ・事業判定員の任期は2年で再任はないとのことで、偏らない仕組みとなっており、瀬戸市も色々な会議体での再任は見直しを図るべきと感じた。 ・事業判定制度は、市民感覚を取り入れる事を目的とされており、市民尺度での議論がなされる事が重要であると思った。 ・事業判定制度の結果は決定ではないが、ほぼ尊重されており、市民から見た税の公平性が保たれる制度である。 	
調査・研修を終えて所感	<p>遅れている瀬戸市の行政評価を至急改め、透明化を図り、市民への情報公開を進めなければならない。</p> <p>議会として数年前から要望している、事務事業評価シートを作成し、自己評価をしっかりとすべきである。</p> <p>市民への説明責任をしっかりと果たすことを瀬戸市長に望むところである。</p> <p>議会としても引き続き、行政評価の仕組み作りについて監視していかなければならない。</p>	